

# せき ただし 関野貞日記

関野貞研究会編

関野貞（一八六七—一九三五）は、日本の近代的文化財制度の立ち上げとその後の運営に深く関わり、建築史学、美術史学、考古学、歴史学にまたがる広い研究領域を開拓した。本書は、関野貞の学生時代の明治二十四年から、逝去した昭和十年まで、ほぼ四十四年間にわたる日記、日録、調査記録を集成・翻刻。明治中期から本格化した、日本の文化財保護行政と関連諸学の研究活動の動きを具体的に辿ることができる、第一級の史料である。



「中国旅行日記」より

上製本・函入り（A5判上製函入 本文八四四頁 口絵四頁）

定価 一九、九五〇円（本体一九、〇〇〇円＋税）

ISBN978-4-8055-0586-1 C3020

編集：関野貞研究会

藤井恵介（東京大学准教授）・早乙女雅博（東京大学准教授）

角田真弓（東京大学技術専門職員）・大西純子（東京藝術大学非常勤講師）

吉川 聡（奈良文化財研究所歴史研究室長）

## 収録日記

- **世路之菜**（明治二十四年～二十五年）  
関野貞の第一高等中学校時代および帝国大学工科大学の学生時代の日記。私的な日常生活に関わる記事、また出身地高田の関係者との行き来も多く記されている。
- **東京地震調査報告記録**（明治二十七年）  
帝国大学工科大学二年に在籍中の明治二十七年六月二十日に起きた「東京地震」の調査記録。造家学科教授中村達太郎に引率され調査に従事。
- **庄内地震調査報告記録**（明治二十七年）  
明治二十七年十月二十二日に起きた「庄内地震」の調査記録。実施行程で見聞したさまざまなことを記録するという方法は、後の旅行記に通じる。被害状況を示す関野貞自身によるスケッチ14点を収録。
- **世路之志保里**（明治三十年～三十一年）  
関野は、明治二十九年十二月に古社寺修理工事監督として奈良県に赴任し、古社寺保存委員、明治三十年六月には奈良県技師に任命されて奈良で活躍。日本の文化財行政が形成されつつあり、その中で関野も自らの学問を形成していく、重要な時期の記録。
- **当用日記**（明治三十二、三十四、三十五、三十八、三十九年）  
前半は奈良県技師時代の記録。明治三十四年九月に東京帝国大学工科大学助教授に任じられて東京に戻る。明治三十五年六月には初めての朝鮮調査旅行に出発し、その際の詳細な記録を含む。この調査旅行は、その後に関野が展開する東アジア文化財研究の嚆矢をなす。調査スケッチ、奈良の風俗スケッチを含む。
- **中国旅行日記**（明治三十九年）  
明治三十九年から翌年にかけての関野貞の最初の中国調査旅行の記録。初めての中国旅行で風俗が印象的であったようで、スケッチが多数含まれている。その多くを収録した。
- **当用日記**（明治四十二～四十四年）  
市販された日記帳に記された。明治四十四年当用日記の末尾には、東京帝国大学工科大学での関野の講義で配布されたと伝えられている自筆の仏像スケッチ十六葉を収録。
- **遊西日記**（大正七年～九年）  
朝鮮、中国、インド、エジプト、ヨーロッパ、アメリカを巡る二年三カ月余りの大旅行。中国には約八カ月滞在し、天龍山の本格的調査を行い、その発見者として名を残す。またインドに四カ月半、ヨーロッパに十一カ月、アメリカに一カ月滞在。スケッチ、写真も収録。
- **日録**（大正三年～六年）（大正九年～十五年）（昭和二年～十年）  
関野の後半生の活動記録。大正三年から逝去する昭和十年七月まで、継続的につづられている。記事の内容は、出勤場所、旅行日程、出席の会議、講演、世の中の出来事など。一日につき一行の数行で記されている。

# 関野貞日記



「庄内地震調査報告記録」より

## 目次

序

世路之栞（明治24年～25年）

東京地震調査報告記録・庄内地震調査報告記録（明治27年）

世路之志保里（明治30年～31年）

当用日記（明治32年、34年、35年、38年、39年）

中国旅行日記（明治39年）

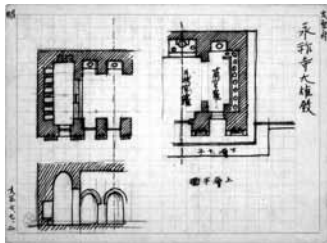
当用日記（明治42年～44年）

日録（大正3年～6年）

遊西日記（大正7年～9年）

日録（大正9年～15年）

日録（昭和2年～10年）



「遊西日記」より

編注

解説

- 1 書誌と内容（藤井恵介・吉川聡）
- 2 関野貞と高田の地縁（角田真弓）
- 3 奈良県における古社寺保存と関野貞（清水重敦）
- 4 日記からみる文化財保護行政と調査方法（角田真弓）
- 5 関野貞と朝鮮古蹟調査（早乙女雅博）
- 6 中国旅行の日記について（大西純子）
- 7 関野貞のインド旅行（藤井恵介）
- 8 関野貞が見た西洋の建築（角田真弓）
- 9 「遊西日記」欧米にて（大西純子）

関野家家系図

索引



長崎県福濟寺修理工事現場 左が関野貞

〈本書の特色〉

- 関野貞が学生時代の明治中期から、大正、昭和10年までの日記・日録を忠実に翻刻。研究の進捗状況、文化財の調査出張、関係会議出席状況などが克明に記されており、当時の建築界の動向も垣間見える。それぞれの時代の近代の研究者の姿や社会的な立場の活動が明らかにされる。
- 日本、朝鮮、中国における文化財調査、保護政策の発生から、発展過程が明らかになり、現在の各種の研究に有力な情報を提供。
- 朝鮮半島、中国、インド、西欧への出張は単独で旅行日記としてまとめられ、そこでの調査・研究、現地における遺跡、建築などの同時代の状況が記されている。
- 関野自身の手による巧みなスケッチ、写真を多数収録。
- それぞれの日記の体裁や、関野貞の各時代の研究・行政活動を紹介する、編者らによる9つの解説を含む。
- 日記に登場する当時の建築界をはじめ、各界で活躍する人名、学会、組織名などについて簡潔な注で紹介。

## 関野貞（せきの ただし） 略歴



- |             |   |
|-------------|---|
| 1867年（慶応3）  | 越後国（新潟県）高田に高田藩士関野峻節の二男として生まれる           |
| 1892年（明治25） | 帝国大学工科大学造家学科入学                          |
| 1895年（明治28） | 帝国大学工科大学造家学科卒業 日本銀行の設計に従事し、東京美術学校で教鞭をとる |
| 1896年（明治29） | 奈良県へ赴任、奈良県技師として古建築の修理実務、古建築の調査に従事       |
| 1901年（明治34） | 東京帝国大学工科大学建築学科助教授                       |
| 1903年（明治36） | 内務技師（後に文部技師）を兼務し、古社寺保存法の運用を担当           |
| 1908年（明治41） | 工学博士                                    |
| 1917年（大正6）  | フランス国学士院より「スタニスラス・ジュリアン賞」を受賞            |
| 1920年（大正9）  | 東京帝国大学工科大学建築学科教授                        |
| 1928年（昭和3）  | 東京帝国大学退任後東方文化学院東京研究所研究員として中国建築の調査研究に従事  |
| 1935年（昭和10） | 7月、急性骨髄性白血病のために逝去（享年69歳）                |

# 中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834